

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

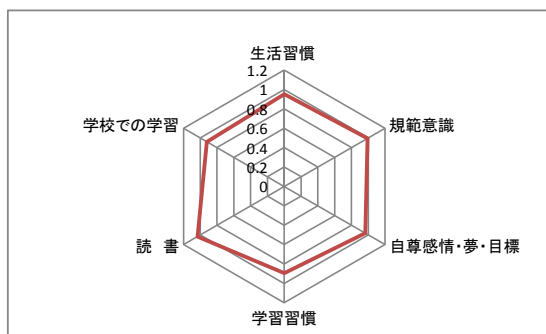
国語A	全体的な傾向や特徴など	・話す・聞く力を問う問題に課題があり、聞き方・話し方を身に付ける必要がある。 ・読む力を問う問題は、昨年度より差が縮まった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字の問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・ローマ字で書く、読む問題は、正答率が低かった。無解答率は高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回ったものの、昨年度よりも差は縮まった。 ・話す・聞く力を問う問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題は、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回ったものの、無解答率が低く、問題に対して粘り強く取り組むことができたようになった。 ・量と測定、数量関係領域の正答率が低く、課題が残ったが、数と計算領域は、全国平均正答率をわずかに下回るものだった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解する問題は、正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回ったものの、図形領域においては、上回った。 ・量と測定、数量関係領域の正答率が低く、課題が残った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・正方形に内接する円の半径について理解する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つ人間になりたいと思うと答えた児童は全国平均を上回っていた。学校行事等で、賞賛することで気運を高めている成果がでてきている。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童は全国平均を上回っていた。全校で話し合うことの楽しさや良さを実感させる授業に、取り組んでいる成果がでてきている。 ・学校のきまりを守っていると答えた児童は、全国平均をわずかに下回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究と関連付けて、1単位時間の中で、話し合う活動を取り入れ、話す・聞く力の育成に引き続き全校で取り組んでいく。 ・学年末に、習熟度別学習を実施する。1学級を4分割程度に分け、担任と担任外の教員で指導を行う。 ・学力向上推進教員と、校内の人材育成や主題研究の連携を図る。 ・引き続き、1年生児童を対象にMIM(多層指導モデル)学習を行う。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習について、「折東っ子スタンダード 家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習時間の習慣がつくように、学年通信・学校だより等で引き続き家庭に周知していく。 ・希望者による「ひまわり学習塾」を引き続き実施し、自主学習の習慣化を図っていく。 ・懇談会等で、全国学力・学習状況調査の結果と取組を保護者に説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
